

NO!リニア

No. 25

2010年 6月26日

JR東海労働組合

リニア反対プロジェクト

シンポジウム・リニア中央新幹線は必要か？シリーズ⑤

スイス・アルプスのトンネルは国民投票で決めた！ 一企業のエゴと住民の生活とどちらが優先なのか？

大鹿村住民・自治会長サイモン・ピゴット氏

今まで標高1000mの山奥で20年静かに暮らしてきました。平成21年3月に突然ボーリング工事が始まりました。10世帯の住民には何の説明もなく、風のたよりでリニアの工事だと知りました。その後JR東海が説明に来て、住民に協力を要請しましたが、住民の声にもかかわらず半年間24時間工事を続けました。騒音に耐え切れず2軒が移転しました。

平成21年12月の調査ボーリングが、県の許可が得られずに運良く工事は止まりました。昨年4月、私が自治会長になったときに再度JR東海に説明を求めた際、

村長と役場の課長と会議を行いました。このときの話によると、長野県側の現場の調査作業はストップのままになりました。この問題を広く伝えていきたいし、議論をしてほしいのです。

スイスでは、アルプスの下でトンネル工事中です。完成したら57kmになり、日本の青函トンネルを越して世界一の長いトンネルになります。このトンネルはスイスの国民投票で決められ、そして承諾を得た上で決定されました。このような過程が日本でも必要だと思います。このリニア中央新幹線構想は、一企業の利益を基にした経済原理によって決められる問題ではないのです。様々な公共性を持った問題なのです。

